

□シンポジウム等（指定）

本わさび抽出物スルフィニル成分の抗炎症作用と慢性疲労症候群に対する治療効果の可能性

中富康仁¹、田村泰久^{2,3}、久米慧嗣^{2,3}、大和正典^{2,3}、片岡洋祐^{2,3}、岡本稔⁴

¹ナカトミファティীগケアクリニック

²理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター・細胞機能評価研究チーム

³理化学研究所 CLST-JEOL 連携センター・マルチモダル微細構造解析ユニット

⁴神戸ウェルネスサイエンス株式会社

わさびは、日本原産のアブラナ科ワサビ属の植物で、薬草として利用されてきた歴史がある。最近の研究から、わさびの根茎部分に含まれる機能性成分 6-メチルスルフィニルヘキシルイソチオシアネート (6-MSITC) の解毒代謝酵素誘導作用・抗がん作用・抗酸化作用・抗炎症作用等が注目されている。一方、近年、慢性疲労症候群において、酸化ストレスの上昇、抗酸化力の低下、脳内の神経炎症の惹起、全身代謝の異常などが病態機序に関わっていることが明らかとなってきた。そこで、まずは 6-MSITC をラットに胃内へ単回投与し、肝臓代謝への作用をメタボローム解析によって検討した。その結果、6-MSITC はエネルギー代謝の一部に影響する可能性が見出された。さらに、ラットに人工二本鎖 RNA である Poly I:C を腹腔内投与して擬似ウイルス感染モデル動物を作製し、中枢神経組織での各種炎症性サイトカイン (IL-1beta、IL-6、TNFalpha) の発現に対する 6-MSITC の効果を検討した。6-MSITC は飲水中に含ませ、2 週間、自由摂取させた。その結果、6-MSITC の飲水投与が脳内での炎症性サイトカイン発現を抑制することがわかった。今後、6-MSITC 自身が脳内へ移行してサイトカイン発現を抑制したのか、あるいは末梢において抗炎症作用を発揮した結果、間接的に脳内サイトカイン発現を抑制したのかを確認する必要があるものの、6-MSITC のもつ抗炎症効果が疲労病態の治療に利用できる可能性が見出された。

そこで、現在、当院に通院中の慢性疲労症候群の患者で、漢方、ビタミン、向精神薬による治療に反応しなかった方を対象に 6-MSITC を含むサプリメントを服用いただき、効果を検討した。サプリメントを服用し始めたころより病状が改善に向かった症例を複数経験したため、今回、あわせて報告したい。